



文化芸術特集

「アートがいっぱい」

秋桜祭り開催～地域の皆様と一緒に楽しみました

さくら学園

トーク「かがくいひろしの世界展」を見て

知人を通して「かがくいひろしの世界展」を担当している方と出会い、かがくいさんのことや、八王子での開催を知りました。かがくいさんは、2005年、50歳で講談社絵本新人賞を受賞し、作家活動を本格的に始め、「だるまさん」シリーズを含む16作品を世に出しましたが、54歳という若さで、すい臓がんのために急逝されました。2008年の元旦に「だるまさんが」、8月8日に「だるまさんの」、2009年元旦に「だるまさんと」の3部作を刊行、現在も900万部を超える驚異的な売り上げを続け、他の作品も多くの子どもたちに読まれています。

特別支援学校の先生として、重い障害をもつ子どもと長い時間一緒に過ごしたことを聞き、是非とも「かがくいひろしの世界展」に行きたくなりました。駅から少し離れ、平日の昼間にもかかわらず多くの人がいました。前回の神戸開催では、最終日に並んで入ることが出来ないほど混雑したと聞き、実際に入館して、その熱気を感じる事が出来ました。

絵本の原画や世に出なかつた作品の数々、学校時代に担当した生徒の顔を書いた絵や生徒と一緒に製作している動画等、展示の多さと内容の豊かさに時間を忘れるほどでした。かがくいさんについて、ご兄弟や奥様、多くの友人の想いを綴った文章も展示されていました。その中で、触法障害者の支援を通して以前から面識のある人が、かがくいさんと同じ学校で一緒に働き、何でも話し合う仲だったと聞いて驚きとともに親しみも憶えました。特に印象的だったのは、奥様がかがくいさんのことを「人間の弱さを深いところで理解する」ことが出来た人と表現していたこと。もう一つは、かがくいさんが大学寮のベッドの脇に常に貼っていた「ドイツ・ビールフェルト ベテル施設 修道女」の以下の言葉です。

「効果があればやる、効果がなければやらないという考え方は、合理主義と言えるでしょうが、これを人間の生き方に当てはめるのは間違いです。この子どもたちは、ここでの毎日毎日が人生なのです。その人生をこの子どもにもなりに喜びをもって、充実して生きていくことが、大切なのです。私たちの努力の目標もそこにあります」。

かがくいさんの絵本が、時間を超越して、子どもにも大人にも愛され、読み続けられている理由がわかったような気がしました。

「アートがイッぱい」

空に集う色と形

第2大島恵の園

第2大島恵の園では週3日午後2時間「創作」に取り組んでいます。創作室に来るのは10名前後で、自発的に参加する利用者が大半です。私たちが一番大切にしていることは、利用者が自主的に楽しく活動すること。自主性を引き出すには環境整備が重要と考えています。やりたいことを自覚して素材や描画材料を選び、自分自身で片付けまでやれる環境づくりを心がけています。また、同じぐらい大切なことは利用者とのコミュニケーションです。活動をする上でのかっかけを提示して、本人と対話のもとで進めています。好きなリクエスト音楽を聴きながら、自由画や塗り絵や折り紙作品などをベースに落ち着いた活動になっています。

「創作」では個人制作を重視していますが、自分の興味や関心などのように引き出し作品化していくのが大きな課題です。たとえ立派な作品になっても、共同制作で協力していただき販売を行っています。

お客様から「とてもよかったです」「もっと作品が見たいので施設へ行って良いですか」と連絡をいただいたり、陶芸作品を飲食店で使用している店主さんからお客さんの反応なども教えていただいています。今年は世田谷区内のイタリアンレストランから、「お皿をお店を出させてほしい」と連絡があり、利用者共々作品作りに意欲がわきました。

また、さくら学園では地域の方を対象に年に1度公開講座を開いています。利用者が行っている作業を体験していただき、作品作りの楽しさや、さくら学園のことを知っていただくきっかけになっています。今後多くの方に愛される作品作りを続けていきたいと思います。

全て手作りのオンリーワン作品



はそれぞれの個性が打ち消されることはありません。園内の行事が近くと装飾をみんなで作りますが、個性的な表現が集まるような共同制作を目指しています。

大島で開催された国際現代美術展にも参加し、園庭にドーム状の共同作品「空に集う色と形」を設置して公開しました。地元大島で個展を開くと作品がほとんど完売する利用者もいます。その方は本当に描くことが好きで、暇さえあれば身の回りの色々なものをモチーフにして個性的な絵画を生み出します。

作品の何点かは町の作品展やイベント、平和美術展に出展しています。地域の方々をはじめ、たくさんの方に見て



「空に集う色と形」共同作品

アートウォール・シビック「きずな」とリアン文京

9月4日から9月29日まで、文京シビックセンターの地下一階拭き抜け周囲で「アートウォール・シビック「きずな」と」が開催されました。「アートウォール・シビック」とは、若手芸術家を支援することを目的として、2002年から文京区が主催している文化プログラムで、リアン文京は2016年から参加しています。

令和6年度は、総作品数33点、総勢22名のアーティストにより描かれた作品が展示されました。作品の一つ一つには、作者の見える世界や物語がこめられています。生活の中で見ている何気ない風景や、人とかかわりの中で生まれた感情、好きなものや気になるものなど、なかなか人と共有することがない様々なものを、作品を通してたくさんの人に届けられるように願いを込めています。画材は、色鉛筆やクレヨンのほか、カラーペンやボールペン、たぐさんの種類の絵具や筆ペンを用意しています。また、絵を描く画用紙も、白色だけでなく、色画用紙を使用したり、はがきサイズのものから大きなキャンバスまで、様々な大きさのものを用意したり、その日自

もらうことで作品を通じた交流もできています。最近、店内での作品展示依頼がいくつもありました。アート活動を通じて更なる地域との交流を広げているところです。

世界に「ただけ」の作品

さくら学園

さくら学園は、日中活動で「織物」「陶芸」「紙漉き」を行っています。各班で利用者の好きなことや得意なことが続けられるよう、支援員のサポートを受けながら世界に「ただけ」の作品を作っています。

「陶芸班」では、粘土を捏ね形を形成。絵を描き、釉薬を塗って乾かし、学園内にある窯で焼いています。「織物班」は地域の企業や住民から頂いた糸や着物、シーツなどを染色し、織り機を使って織り込んでいます。「紙漉き班」は牛乳パックを細かくして攪拌、漉き舟を使って手漉き和紙を作っています。

どの班も、完成までに多くの工程があり、全ての工程に少しずつ利用者が関わることによって作品が出来上がっています。一人ひとりが得意なことを自分のペースで行い、作品を完成させるにはたくさんの方が協力しますが、出来上がった作品はとて素敵です。作品は学園内だけでなく、近隣施設にも

分の描きたいものに合わせて自分で選択できるようにしています。

それぞれの画材の良さや特性を見て、自分の描きたいテーマを表現するためにどうすればよいのか、時に人と相談をしながら、丁寧に仕上げられています。

絵は一点ものです。同じ人が同じものを描いたつもりでも、まったく同じ絵は生まれません。人生は時間と同様、決して止まることなく進んでいきます。その中で、たくさんの人や出来事と関わり、自分でも知らずのうちに変化を繰り返していきます。止まることのない人生の、その一瞬を切り取ったものが作品になるのだと展示を通して感じました。

回数を重ねるたびに、たくさんの人に展示を見ていただくようになるようにしたいです。これから先、時代が変化し多くのもものが変わっていくことになっていくことも、作品を通して表現をすること、



一瞬を切り取った一点物の作品

むさしの武蔵野

地球温暖化で

思う事

「10月に入ったのにまだこんなに暑いのか?」と思った事が年々増えていませんか。10月ならまだしも、11月になっても暖かいと思う年もあります。このまま地球温暖化が進むとどうなってしまうんだろうと危惧する気持ちもありながら、何かしなければと思いつつ時間ばかりが過ぎていきます。地球温暖化は、主に二酸化炭素を多く燃やすことで、余分な熱が宇宙に放出されず地球にこもった状態を指します。環境省のシミュレーションでは、このまま対策を取らない場合、世界の平均気温は4.8℃上がります。日本の平均気温は40℃を超え、冬に雪が降らず、北海道が唯一の米どころになると描かれています。二酸化炭素排出は、中国とアメリカを合わせたおおよそ50%になり世界の半分となります。ちなみに日本は3%です。国内の排出内訳は、以前は石炭が多かったですが、近年では電力関連が50%以上を占めています。このデータを見て、私たちがすぐ取り組む事は電力をなるべく使用

しない事と言えます。節電に努めることもそうですが、水道水の供給にも二酸化炭素は排出されます。また、住宅の工夫(ソーラーパネル等)や車をなるべく使わない事、プラスチック商品の購入を控える事、リモートワークを増やす事(関係者と会うために車を使用したり、諸々の排出の機会を減らす)、花や野菜を自宅で育てる事(二酸化炭素を吸収してくれる)などがあります。一人ひとりの小さな工夫や配慮の積み重ねで地球が守られている事が分かります。ただ、自分自身に置き換えてみると、何一つとも出来ていません。

やらなければいけないのですが、まず温暖化防止のための意識が薄かったり、様々な理由を見つけては出来ていないのが現状です。仕事に置き換えてみても、当てはまる事は多々あります。継続して行う事が大切ですので、自分が続きそうな取り組みをいかに日常的に行えるかを目標にしたいと思います。年齢を重ねたからこそ、色々な出来事への意識・関心を強く持たなければと考えさせられました。

九品仏生活実習所

施設長 三浦 誠一

作品を通じて繋がった方々との縁を大切に続けていくことを目指しています。

アトリエサークル

八王子生活実習所

月に一度土曜日の午後、講師と一緒にアート活動を主とした「アトリエサークル」を開催しています。当初は少人数での実施を考えていたのですが、多くの利用者の方から参加したいという希望があり、現在では全利用者の方を対象としています。内容は毎回違う企画を用意し、特に季節感やイベント感を大事にしています。ある時は夜空を演出した空間とクリスマスツリーに紙で作った雪が舞い、ある時は手作り衣装を纏って歌舞伎ファッションショーを行いながら、手作りどら焼きの身を自由に選んでのお茶席など、皆があつと驚き、かつ思い出に残る企画を考えています。

今回は、カラービニール傘を使った創作を行いました。じめじめした雨の時期が少しでもウキウキした気分になるよう「白いパラソル」と題しましたが、皆さん赤や青のカラフルな傘を選んでいました。お好きな色の傘を選んだら飾りとなるフリンジやシール、テープ等を自由に手に取っていきまます。ビニール素材を手で確かめ



クラゲのような白いパラソル

ながら創作する方、気に入った色や柄で統一する方など、個性豊かな「ものづくり」の時間が流れます。今回フリンジ素材が特に好評で、オーロラ色のキラキラした細かい紐が風でゆらゆらするためく様子を、時間を忘れて見入っている方が多くいらっしゃいました。シールでは惑星柄のシールを青い傘に無数に貼り、「宇宙の銀河のようですね」「地球はどこですか」等、会話が弾みました。出来上がった作品は、天井の高いホールに飾り、下から眺められるようにしました。ホール天井からの明るい自然光に照らされ、ステンドグラスのような輝きと優しい色合いに、感嘆の声が上がりました。毎回土曜日だけの展示では勿体ないとの声が多く、玄関をはじめ、色々な場所に展示しています。来所される方に、少しでも雨の季節を楽しく感じてもらい、創作時にみんなで感じた「色とりどりの雨」を一緒に味わっていただきま

ちよだんごカフェの だんごアートづくり

千代田区立
障害者福祉センター
えみふる

えみふるの生活介護事業では、日々の創作活動や作業療法の時間を活用し、利用者の皆さん共にアート作品作りに力を注いでいます。これまで、地域と連携しながら様々な作品を制作し、多くの方々に楽しんでいただける機会を提供してきました。

例えば昨年、一昨年はえみふるからほど近いJR御茶ノ水駅にちなんだアート作品を制作し、駅構内に展示していただきました。このプロジェクトでは、地域の象徴的な場所や風景を題材にした作品を作ることで利用者皆さんの想像力を地域社会に広めることが出来ました。昨年から今年にかけては、千代田区内の銭湯に、富士山をモチーフにした大きなちぎり絵や銭湯のキャラクターを描いたアート作品を展示するなど、地域のコミュニティに根差した活動も積極的に進めています。

今年もアート作品がいくつも完成しています。その中でも特に注目したいのが、今年オープンした地域コミュニティカフェ「ちよだんごカフェ」をイメージした新作のちぎり絵です。この作品は、カ

フェで提供されるだんごや、おいしいドリンクをテーマにしており、利用者の皆さんが丁寧に紙を千切り貼り付けるとい作業を分担しながら心を込めて作り上げたものです。だんごの柔らかさや美味しさが視覚的に感じられる、温かみのある作品に仕上がりました。このアート作品は実際に「ちよだんごカフェ」の店内に展示される予定です。アート作品が地域の方々に楽しんでもらえる場所に飾られることは、私たちにとって大きな喜びであり、利用者皆さんにとっても自分たちの作品が地域の一部として認められる素晴らしい機会となります。

えみふるの生活介護事業では、これからも地域社会とのつながりを大切に、利用者の皆さんが自分の力を発揮できる場を提供し続けていきます。皆さんも是非「ちよだんごカフェ」に足をお運びいただき、美味しなお団子と一緒に温かみ溢れるだんごアートをお楽しみください。



だんごアートを見に来て下さい

キズ(傷)ナが深まる 「ガリガリくるくる版画」 表現活動

世田谷福祉作業所

世田谷福祉作業所では利用者の表現活動として、「ガリガリくるくる版画」を行っています。主に生活介護を利用されている皆さんが「ドライポイント」という技法を用いて、アーティストとして版画制作をしています。世田谷公園で見つけた小枝や石、作業所にある工具など身近な物を使って、紙製のシートにその日、その時の想いを傷として残します。力強さを感じる太いラインから、その人の優しさを感じる細いライン、薄いテンや紙が破けるほどの深いテン時にはシートを破いて貼り付けるなど、シートの傷は様々です。

始めた当初は、どれも同じように見えていた作品も、回を重ねるうちにアーティストの特徴が出てきて、作品を見ればその日の調子もわかるぐらい、気持ちや作品に伝わります。作品をつくる道具も日々バージョンアップしており、細い工具を握るのが苦手な方には、段ボールで取っ手をつけて、握りやすくするなど、職員の創意工夫でアーティストの製作意欲を掻き立てます。

版画の作品は、就労継続支援B



ガリガリくるくる版画作品

型で漉いた紙に印刷しており、実際にどのような線や点が出るかは印刷してからのお楽しみです。印刷する紙、インクの絡み具合、圧力のかけ方で、同じ版でも違った表情を見ることが版画の魅力です。世田谷福祉作業所では一昨年から版画の作品展「ガリガリくるくる展」を開催し、今年で3回目を迎えます。ここでは、版画作品の他、制作風景をまとめた動画やスライドショーの映像作品、普段使っている道具の展示、一つ一つの作品に残してある制作の様子や職員の工夫したポイントなどを記入したケースレコードも大好評です。これからも世田谷福祉作業所では、利用者表現活動の一つとして「版画」制作を続けていきます。作品展示や販売、関連グッズ制作を通じて、作品に価値を見出し、地域・社会の方に世田谷福祉作業所のアーティストを知ってもらいたいと考えています。

アトリエの時間 東堀切くすのき園

くすのき園のアート活動は制作のみが目的ではなく「参加する人が楽しめる時間が大切！」というコンセプトで活動しています。始まりは、ある方が余暇の時間に一人で絵を描いていたところ、周りの方も「やってみようかな？」という感じで一緒に描き始めたのがきっかけでした。活動内容も、筆で描く「絵画の活動」から、それぞれの良い時間を自由に同じ空間で共有する「アトリエの時間」に変わっていききました。数年前からは、外部のアドバイザーも参加し、仕上げるのが目的ではなく、「作品は、利用者が楽しく過ごした時間の素敵なおまけのようなもの」という考えでアトリエの時間を過ごしています。画材や描き方など、職員も一緒に考え提案しますが、使う道具や、どうやるか、どう表現するかは「その人の好き」が選べることを大切にサポートします。

くすのき園のことを知ってもらおう機会となりました。地域のお祭りではライブペインティングのブースを設け、近隣の子供たちと一緒にアートな時間を過ごす楽しい交流の場を企画しました。

これからのくすのき園では、定期的な「アトリエの時間」だけでなく、アートをしたくなったときにはいつでも自由に表現できる「オープンアトリエ」の環境を、施設内に整えていきたいと考えています。秋の深まりと共にアートな計画もますます色濃くなっていきます。



楽しい時間が作品になります



私の力作を見に来てください

ニュース ラウンジ

放課後等デイサービス ロード&短期入所

リアン文京

放課後等デイサービスロード

令和6年9月1日から委託事業である「文京区放課後等デイサービスロード」を開設しました。同地区にある「放課後等デイサービスおら」と同規模で、中学生・高校生を対象とした定員20人の放課後等デイサービスです。「自信をつけよう！仲間をつくらう！夢を描こう！」をスローガンに掲げ、社会人生活へ繋げる支援を行います。

ロードでは「学び」「体験」「技術」「運動」「感性」の5つの軸からプログラム展開し「学習スキル・生活スキル・コミュニケーションスキル・社会生活スキル」の4つのスキル向上と基礎体力の強化を目指します。

多様なプログラムの中から、「やってみよう」「やってみようかな」の気持ちを出し、自分で決め、取り組むことで責任感と達成感を感じてもらい、一人ひとりもっている力を伸ばします。また健康・生活・運動・感覚・認知・行動・言語・コミュニケーション・人間関係・社会性の5領域の習得を目指した支援を提供します。「ロード」という名称には「道

「人生」の意味が込められています。12歳から18歳までの通所期間6年間は一人ひとりとって人生の大切な通過点。多感な時期だからこそ色々な感情「喜び」「楽しみ」「迷い」「悩み」「挫け」「立ち上がり」と出会うことができず。色々な感情と出会い、経験を積み、社会人生活への準備をしていきます。

私たちは親でも教育者でもない立場から時には道標となり、時には逃げ場にもなり、安心して成功体験も失敗体験もできる関係性構築を図っていき、共に道を歩み社会人生活への移行を役割の一つと考え、自ら地域に出ていき拓けた事業所作りを行います。



文京区放課後等デイサービスロード「目指せ！オフィスCafé」

緊急時受入れ支援事業

令和6年11月1日から文京区緊急時受入れ支援事業を開設します。この事業は文京区放課後等デイサービスロード（前出）と併設し一体的運営を行います。文京区在住の18歳以上65歳未満の障害がある方（身体障害者手帳・愛の手帳・精神障害保健福祉手帳・自立支援医療受給者証（精神通院）のいずれかをお持ちの方）を対象

とし、ご家族の急病や事故等で介護者不在となり、介護ができない場合や虐待または虐待のおそれがある場合などの緊急時に次の行先へ繋げるまでの期間（最大4日）利用できる事業です。

緊急時受入れ支援事業は地域生活拠点事業の5つの柱（相談・緊急時受入れ・体験の機会・専門性・地域体制づくり）の一つで、区では緊急時受入れ支援事業を開設することで5つの柱の整備の実現となり、私たちは緊急時受入れ支援事業に携わることで行政機関や関係機関との連携を図りながら運営をしていきます。

緊急時に一番不安な思いを抱くのは利用者本人です。まずは、本人の生活リズムに合わせながら安心できる環境を整えるため、関係機関（例えば通所先事業所）にも協力を依頼し、事前登録時、実際の緊急利用時の同行（泊り含む）の確保と並行して、行政を含む関係機関と連携し次の生活基盤の目処を立て移行していきます。

本人が不安にある中で、安心できる環境、知っている人の中で、できる限り安心して次に繋げていくために、関係機関との連携（関係性構築）を日常的に行っていく必要があります。

法人として文京地区に施設を開設し10年を迎える中、法人内のみならず、行政や他事業所（法人）との協力の中に成り立つ事業でもあると感じています。

文京区放課後等デイサービスロード・緊急時受入れ支援事業とともに、人と地域をつなぐ絆社会の実現を目指します。

施設あれやこれや

大島恵の園

10月から給食の副菜を完全調理食に切り替えました。職員の確保が給食委託業者でも難しくなり、少人数調理が出来る形に移行したためです。味の評判は上々です。おいしい給食の安定した提供を行っていきます。

練馬福祉園

11月9日（土）に地域イベントを行います。毎年恒例のサンバカーニバルに加え、ケータリングカーや、フェイスベントのペインターに来てもらいます。久しぶりのイベントを今から心待ちにしています。

白鳥福祉館

桜や藍などの草木染を始めました。桜は葛飾区内の剪定枝を分けていただきました。工賃向上だけでなく、地域交流やSDGs、感覚統合など様々な目的での新たな取り組みです。Made in 葛飾。商品ブランディングも考え中です。

第2大島恵の園

園では食事の配膳を希望する利用者の方々に手伝ってもらっています。その労に感謝する意味で、年に2度「配膳慰労会」を催し、今回は、9月24日に町のレストランや

法人永年勤続者表彰

令和6年度の永年勤続者表彰が八王子の京王プラザホテルで10月17日に開催されました。理事長から一人ひとりに表彰状と記念品が贈呈され、受賞者を代表し、小平福祉園の古島福江職員が謝辞を述べました。表彰を受けたのは次の方々（敬称略）です。



令和6年度永年勤続表彰の皆さん

令和6年度
永年勤続者表彰の皆さん

- 勤続30年 山内ゆきみ（すぎな愛育園）
- 勤続30年 安部 優（リアン文京）
- 勤続30年 大矢由美子（北町福祉作業所）
- 勤続20年 古島 福江（小平福祉園）
- 勤続20年 小池 歩（八王子市心身障害者福祉センター）
- 小室 静子（さくら学園）
- 矢野 敬之（同）
- 大宮 恵子（大島恵の園）
- 松本陽一郎（同）
- 一刈 貴典（駒沢生活実習所）
- 上原みのり（同）
- 佐藤 弘章（光が丘福祉園）
- 石堂 京子（小平福祉園）
- 安井 正勝（同）
- 寺平 公行（リアン文京）
- 勤続10年 菅 春菜（本部）
- 稲葉 潤子（さくら学園）
- 沓間 祐幸（同）
- 松本 淳史（同）
- 横山 秋好（同）

相澤農園さんとの畑作業

武蔵野児童学園

昨年度法人セミナーのパネルトークで話をしてくださった相澤農園代表の相澤孝一さんと、同日基調講演をしてくださった島田療育センター八王子所長の小沢先生のご紹介により、セミナー以降、学

- 池部 睦美（同）
- 大久保美央（すぎな愛育園）
- 原 麻子（練馬福祉園）
- 宮島 健太（同）
- 宮島 裕美（同）
- 稲木 将大（同）
- 中島 翼（同）
- 秋田美奈子（第2大島恵の園）
- 高橋 君香（同）
- 露久保健太（西水元あやめ園）
- 雨宮久美子（同）
- 加藤 延子（同）
- 村松 栄里（東堀切くすのき園）
- 太田 明（同）
- 森田 智孝（駒沢生活実習所）
- 吉岡みな美（同）
- 井口 裕悟（九品仏生活実習所）
- 四方美穂子（北町福祉作業所）
- 浅井奈美子（八王子生活実習所）
- 市村 勉（同）
- 四谷 泰朗（八王子福祉作業所）
- 吉田奈美紀（鳥山福祉作業所）
- 相川こずえ（光が丘福祉園）
- 村越 剛美（同）
- 石井 正美（同）
- 大島悠花里（小平福祉園）
- 湯浅 初江（同）
- 佐藤小枝子（同）
- 木嶋 明子（同）
- 森山 佳子（大泉町福祉園）
- 岡部 悠介（リアン文京）
- 野中美由紀（同）

園の畑で子どもたちと一緒に野菜の栽培を行ってくださっています。昨年度は子どもたちと一緒に、まずは畑の整備を行うことから始め、今年度はナス、獅子唐辛子、スイカ、かぼちゃ、じゃがいもの苗を植え、それぞれ夏に収穫しました。相澤さんの指導のもと育てた野菜はどれも立派に育ち、特にスイカやかぼちゃはとて大きくなり、子どもたちも驚き、喜ぶ様子が見られました。7月にはじゃがいも堀を行いました。園庭で収穫したじゃがいもを使ってカレーライスを作りました。また、相澤さんの農園に招いてもらい、ラズベリー狩りやブルーベリー狩りをさせてもらうこともありました。ラズベリーもブルーベリーもとても美味しかったです。収穫したブルーベリーでは子どもたちがブルーベリージャムを作り、手作りのチーズケーキと一緒に、日頃のお礼として相澤さんのお宅にお届けしました。その際にはまたたくさんのミニトマトをお土産としていただき、相澤さんにはとても良くしてもらっています。

現在学園の畑ではさつまいもを育てており、11月にさつまいも堀を予定しています。苦手な野菜でも自分が育てた野菜を見て、イメージが変わった子もおり、野菜作りという経験をすることで感謝の気持ちを伝える機会を作ってくれた相澤さんにはとても感謝しています。これからも相澤さんご指導のもと、学園での野菜作りを続けていきますのでよろしくお願いたします。



収穫したじゃがいもはおいしいカレーになりました

カフェに招待しました。皆さん満腹、満足で、非常に喜んでいただけました。

希望の里

8月24日（土）、希望の里が加入する上川町西部町会の町民祭に模擬店を出店しました。コロナ以降、2回目の町民祭でしたが、昨年よりも盛り上がり良いお祭りでした。今後も地域に根ざした活動を続けて行きます。

きね川福祉作業所

GENKI祭りを9月28日に開催しました。午前は家族との親睦、午後は一般公開をして約60名の方が来場。今年は葛飾のご当地ヒーロー、ゼロングの皆さんが来所し、とても華やかでした。

鳥山福祉作業所

交流授業として近隣小学校の4年生がクラスごとに作業所の見学にきました。児童たちからは歓声や驚き、質問も多く、知ろうとする熱意が伝わりました。2月は作業所の利用者が小学校に行き演奏会を予定しています。

八王子福祉作業所

4年ぶりに復活した泊旅行。今年度は伊豆方面に行ってきました。観光地を巡り、見て！触れて！香って！味わって！三昧の2日間でした。普段とは異なる表情に出会え、イベントの大切さを改めて感じています。

お知らせコーナー

11月

- 2日(土)～3日(日) 文京総合福祉センター祭り
(リアン文京) (葛飾地区)
- 9日(土) 実践事例報告会 (葛飾地区)
- 9日(土) 秋祭り (烏山福祉作業所)
- 16日(土) もりあわせFASTA (世田谷福祉作業所)
- 16日(土) ふうせんバレーボール体験交流会
(光が丘福祉園) (練馬地区)
- 30日(土) 実践事例報告会 (練馬地区)

12月

- 24日(火) クリスマス会 (駒沢生活実習所)



可搬型蓄電池

八王子生活実習所

東京都の非常用電源等整備補助金を活用し「可搬型蓄電池ソーラーセット」を購入しました。蓄電池は、中規模容量の持ち運べる電源で、様々な製品や機器に電気を供給できます。平常時はコンセントにつなぎ、その先に電気機器をつなげておくと、停電時に自動で切り替わり、緊急時に充電されていないという事を防ぐことができます。ソーラーパネルも付いて

いるので停電が続いた際は太陽光で充電ができます。様々な場面で活用し、いざという時すぐに活用できるよう備えていきたいと思えます。

蓄電池とソーラーパネル



ガーデンチェアセット

八王子福祉作業所

総合厨房機器メーカーホシザキグループ様では、社会貢献活動をしている団体(個人)を支援する「ホシザキチャリティクラブ」を平成24年に設立し活動をスタートしています。

今回は、当所の利用者ご家族からホシザキチャリティクラブへ推薦を頂き、ガーデンチェアやパラソル等の物品購入の寄付を頂きました。

屋外でケーキやお茶を楽しみたいお客様が年々増え、テラス席の増設が望まれていました。日当たりも良く、開放感あるスペースでの喫茶は、店内の飲食とはまた

違った雰囲気を提供できると思います。現在8割ほど完成。大切に利用させていただきまます。ありがとうございます。



素敵なガーデンチェアとパラソル

ショーケース

自主生産品紹介

旬の商品

秋の味覚イベント

八王子福祉作業所

☎042-626-0631

ドイツ発祥のシュトレーンは、

クリスマスに欠かせない伝統的な菓子パンです。ケーキ屋さんで作るハチウエル・ラボ・カフェのシュトレーンは、オレンジピールやクルミ、ラム酒に漬けたレーズンをたっぷり練りこみ仕上げられています。クリスマスを待つ12月の間、少しずつカットして食べると熟成した味の変化が楽しめます。ぜひ、ご賞味ください。

クリスマス・シュトレーン



武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する施設とグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931
東京都八王子市台町1-19-3
電話・FAX 042-626-9772